岡山県日中教育交流協議会会報

悠久

第 48 号

大連の高校生が英語の授業体験―岡山城東高校にて

本号の内容

①岡山大学スーパーグローバル大学創成支援（SGU事業）の取組み	岡山大学	学長 森田 潔
②岡山県立岡山城東高校の国際交流	岡山県立岡山城東高校	教諭 大西 幸之助
③大連研修感想（下）	STUDENT EXCHANGE in 大連 2015	参加生徒

March
2016

題字『悠久』森崎岩之助 揮毫

岡山大学スーパーグローバル大学創成支援（SGU事業）の取組み

岡山大学長
森田　潔

日本の少子高齢化に伴う人口減少は、今後五十年間のうちに大学で教育を受ける十八歳人口が半減するという状況に突入しています。その中で、現政権が閣議決定しました「日本再興戦略二〇一三」における教育改革、それをもとに文部科学省の「国立大学改革プラン」が示され、私ども大学に対する改革要請は否応なしに進められてまいりました。

そのような時代の流れの中、文部科学省が新規事業として開始した平成二十六年度国際化拠点整備事業費補助金（スーパーグローバル大学創成支援（SGU事業））に、岡山大学の申請事業「PRIME プログラム：世界で活躍できる「実践人」を育成する！」が採択されました。

このSGU事業ですが、我が国の高等教育の国際競争力の向上及びグローバル人材の育成を図るため、世界トップレベルの大学との交流・連携を実現、加速するための人事・教務システムの改革や、学生のグローバル対応力育成のための体制強化など、国際化を徹底して進める大学を重点支援することを目的としたもので、平成二十六年度から最大十年間に渡り実施されます。

この度、本誌へ寄稿の機会を頂戴しましたので、岡山大学のSGU事業の取組みについて、ご紹介させていただきます。

ご存じのとおり大学を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。社会は大学に、世界に通用する人財の育成を求めています。岡山大学のSGU事業は、学生が三基幹力／3 powers（教養力、語学力、専門力）を修得し、三側面／3 faces（異分野、異社会、異文化）の経験を持てるように、三×三（スリー・バイ・スリー）教育を全学体制で推進し、実践の現場で適切な判断をくだすことができる能力（実践知）を有する人「実践人」を輩出し、我が国のグローバル化を牽引することを目指しております。

岡山大学のSGU事業は、グローバル化だけを目的としたものではなく、大きな教育改革でもあります。その大きな柱の一つに六十分授業、四学期（クォーター）制の導入があります。平成二十八年度から全学部に導入いたしますが、学生の学びを強化し、戦後一貫して続いてきた日本の高等教育の在り方や、教養教育の在り方を根本から問いただすきっかけとなるものと思っております。

もう一つは、グローバル・ディスカバリー・プログラムがあります。

グローバル・ディスカバリー・プログラムは、英語と日本語の二言語教育を通じ、先進科学分野、国際連携分野などで持続可能なグローバル社会の構築に貢献する人材育成を目的とする、他の大学では見られない、画期的なプログラムとなっており、こちらも平成二十九年十月から学生受入をスタートさせます。

この六十分授業、四学期（クォーター）と、グローバル・ディスカバリー・プログラムは、岡山大学の教育改革の大きな力になると信じております。

また、岡山大学には、平成二十七年十一月一日で、六百二十八名の外国人留学生が在籍しています。そのうち半数以上の三百四十三名が中国からの留学生となっております。SGUの数値目標では、十年度の外国人留学生を二千人にすることとなっておりますが、現在、タスクフォースチームを設置し、具体的な数値目標を設定すべく鋭意、検討を進めているところであります。

これ以外にもSGU事業として大学が取組む事業は多くありますが、岡山大学がこの地域にあって、真に世界に羽ばたく知の創生を果たし、美しい学都となる大きなチャンスだと思っております。私達が理想とする大学、地域の方が誇りと思うような大学を作りたいと思います。そのためには、目に見える変化を世に示していく必要があります。

そして、明日ではなく十年後、五十年後に評価される大学を創る努力をしてまいりたい所存です。

岡山県立岡山城東高校の国際交流

岡山県立岡山城東高校
教　諭　大　西　幸之助

本校は、韓国に交流校を二校持っている。慶尚南道の慶南外国語高校と金海外国語高校である。例年は相互訪問交流を実施しているが、今年度は、韓国での中東呼吸器症候群（MERS）の流行に伴い、両校との相互訪問は中止となった。六・七月の韓国方面学類研修が延期となった時点では、十月に日程変更ができないかと調整を試みたが、この時期の韓国は、大学修学能力試験（KSAT）の直前であり、先方の都合が付かず訪問交流を断念した。本校への受け入れについても、七月の時点でMERSの終息目途が立っていなかったため、ホストファミリーを募集しにくい状況があり、先方と協議の上、本年度に限り中止とした。

新たな取り組みとして、慶南外国語高校とSkypeによる生徒交流を行った。一学期には、同校を六月に訪問予定であった二年次国際教養学類クラスの生徒が、二学期には、総合的な学習の時間グローバルⅡの課題研究班が参加し、現地で日本語を学習する二年生と、両国の文化や学校生活などについて、オンラインで質問し合ったり意見交換をしたりした。相互訪問が叶わない状況の中で、お互いの顔が見える有意義な交流となった。

日中青年交流事業訪問団　集合記念写真

JENESYS2.0 訪問団との交流会
（訪問団の太極拳パフォーマンス披露）

十一月三十日(月)には、JENESYS2.0の中国高校生訪日研修団を受け入れ、授業参加や交流会などを行った。十時に訪問団到着後、三限目の時間帯に歓迎式を行った。本校校長と訪問団代表の挨拶に加えて、日中友好会館会長の江田五月氏からもご挨拶をいただいた。四限目は、書道の授業に参加してもらった。本校二年次の書道選択生徒がアシスタントを務めた。その後、中国高校生一人ひとりを本校一年次生がBuddyとして担当し、昼食を共にした。五限目の授業は、それぞれのBuddyのクラスの授業に参加した。日本語による授業が大部分であったが、日本の普通科高校の授業の雰囲気を肌で感じてもらうことができたと考えている。六限目は、二年次音楽学類クラスの音楽の授業に参加してもらい、演奏会や、トーン・チャイムを用いたワークショップを楽しんでもらった。音楽交流は言語使用を必要としないので、中国高校生もかなりリラックスできていたように感じられた。七限目は、前述の一年次Buddy生徒と一緒に交流会を開いた。少人数グループで意見交換と異文化交流を行い、最後は訪問団生徒による迫力満点の太極拳パフォーマンスを見せていただいた。

また、一月二十二日（金）には、日中青年交流事業の訪問団を受け入れた。十時に訪問団到着後、簡単な日程説明を挟んで、十二名の中国高校生が六名ずつの二班に別れ、二年次国際教養学類の英語の授業に参加してもらった。各クラスでは、六班の少人数グループに入ってもらい、日中両国の

日中青年交流事業訪問団との音楽交流
（音楽学類の生徒と）

「年中行事」や「若者文化」など与えられたトピックに関する意見交換を英語で行った。お互いに上手く伝わらないときには、辞書やスマホを活用して、何とか意思疎通を図っていた。順序が前後したが、四限の時間帯に歓迎式を持った後、昼食は、事前にマッチングしておいたBuddy生徒と一緒にとってもらった。五限目は、二年次音楽学類クラスの一部の生徒と音楽交流を行った。演奏会の後、二グループに分かれて、一方は「あんたがたどこさ」を他方は「アルプス一万尺」を本校生徒の指導の下、振り付きで練習してもらい、最後にお互いにステージ発表をし合った。体を動かすことで、中国高校生も、かなり緊張がとれた様子であったが、やっと慣れてきた頃には、もうお別れの時間となった。短時間ではあったが、双方にとって、有意義かつ心の温まる交流となったことを大変嬉しく思う。

JENESYS2.0 訪問団　集合記念写真

中国高校生訪日研修団［JENESYS 2.0］受け入れ日程

生徒 28 名（男 12 名，女 16 名）　中国側引率 3 名　日本側基金職員 2 名・通訳 1 名　計 34 名
11 月 30 日（月）　10：00 訪問団到着

	行事	内　容
3限	歓迎式	校長挨拶，訪日団長挨拶，記念品交換 江田五月氏（日中友好会館会長）挨拶 城東高校より高校生活の紹介，城東高校より日程説明 国際課長による尺八紹介（虚鈴献笛）
4限	書道	中国生徒(28 名)と 2-4 生徒(書道選択者 8 名)が授業に参加。
昼休み	昼食	1 年次の国際教養学類（＝5,7 限を一緒に受ける生徒）と一緒に
5限	授業体験	9 班に分かれ，授業に参加 1 組：物理基礎　2 組：ＧＬＩ　3 組：古文 4 組：数Ⅰ　5 組：英表Ⅰ　6 組：古文 7 組：現代文　8 組：生物基礎　9 組：世界の予定
6限	音楽	2 年 6 組（音楽学類クラス）による演奏会・交流
7限	交流会	1 年次生の国際教養学類と交流 訪問団生徒代表挨拶，　訪問団出し物，　班別座談会
16:00	出発	玄関前で記念撮影，見送り

「2015 岡山県日中青年交流事業」受け入れ日程

生徒 12 名（女 12 名）　中国側引率 3 名　岡山県日中教育交流協議会 2 名・通訳 1 名　計 18 名
2016 年 1 月 22 日（金）　10：00 訪問団到着

	行事	内　容
10:00		城東高校より日程説明
3限	授業体験	6 名ずつの 2 班に分かれる（2 年 4 組　コミュ英Ⅱ，2 年 5 組　コミュ英ⅡＪ）
4限	歓迎式	校長挨拶，訪日団長挨拶，城東高校より高校生活の紹介，校内案内
昼休み	昼食	2 年次国際教養学類（2-4 と 2-5 のバディ生徒）と一緒に
5限	音楽	授業体験（音楽学類クラスの「合唱Ⅰ」選択生徒と）
14:00	出発	玄関前で記念撮影，見送り

スーパーグローバルハイスクールの取組

昨年度、本校は文部科学省から「スーパーグローバルハイスクール（ＳＧＨ）」の指定（期間五年間）を受け、「ステージは『世界』だ！」～異力を統合する城東システムの開発～のテーマのもと、グローバルな視野と主体的・協力的な実践力を備えた人材を育成することを目標に、「課題研究」「学類での専門性」「海外での体験活動」を柱とした様々な取組を進めている。

㈠ ＳＧＨ講演会

世界的課題等の基礎知識を得るために、一年間で五回の講演会を一年次生対象（二回目は二年次生と合同）に実施した。

㈡ 課題研究

主体的に考える態度やチーム力を育むことを目的として、一年次生は年度の後半に、二年次生は年間を通じて、それぞれ「ＧＬＯＢＡＬⅠ」、「ＧＬＯＢＡＬⅡ」の授業で班毎に課題研究に取り組んだ。クラス内やグループ内での発表、さらには二月の課題研究発表会でその成果を発表することで、プレゼンテーション能力を高めることにもつながった。来校して生徒を指導してくださった八名の岡山大学の先生方と、毎時間ティーチングアシスタントとして生徒を指導してくれた二十名の大学院生・大学生に感謝したい。また、「ＧＬＯＢＡＬⅡ」の授業では四人のイングリッシュティーチャーが英語で課題研究をする班を支えてくれた。「ＧＬＯＢＡＬⅠ」の年度前半には、ワープロやプレゼンテーションソフトの取り扱いとインターネットからの情報収集についての学習を取り入れた。

来年度は選択した八名の三年次の生徒が「ＧＬＯＢＡＬⅢ」の授業で、さらに深めた課題研究に個人で取り組む予定である。二年間の課題研究や、海外文化体験研修・学類研修（海外）・海外修学研修等で得たネットワーク等を活用し、研究に必要な情報収集および協力者を確保し、探究型学習を深めることになる。これによって得られる知識や経験は、大学入試や大学での勉強にはもちろん、社会人として活動する際にも役立つことになる。

㈢ 海外修学研修

「ＧＬＯＢＡＬⅡ」での活動を通じて選考されたメンバーを欧米諸国へ派遣し、学習の成果をもとに海外の大学や高校、国際機関等で意見交換を行うことにより、プレゼンテーション力やコミュニケーション力を身に付けることをねらいとして、海外修学研修を実施する。昨年度の試行をもとに、今年度は三月四日からの九日間で十名をイギリスに派遣する予定である。二月現在の研修予定場所は、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学、Broxbourne School（高校）、IMO（国際海事機構）などである。

2015 STUDENT EXCHANGE in 大連

大連研修感想（下）

槙尾　華　岡山操山高等学校1年

今回、この事業に参加しようと思ったのは、本当に小さなきっかけでした。その小さなきっかけから四泊五日でたくさんの経験を積み、知識を身につけ、交流をすることができました。この体験は私の人生の中でも大きな影響を与えてくれました。

一日目～四日目の朝までのホームステイは初めての体験でした。最初は何を話したらいいのか分からず、黙ってしまい、気まずくなってしまい焦ったこともありました。でも、ペアの子が優しく話しかけてくれたおかげで二日目からは学校の話をしたりと打ち解けることができました。ご飯も「何が好き?」と聞いてくれて、美味しい料理をたくさん作ってくれました。最後の夜には一緒におやつを作り、とてもいい思い出になりました。

また、大連や上海の観光も、今まで私が思い描いていた中国とは全く別物で、とても楽しかったです。特に上海雑技団は、絶対に日本では見られないような素晴らしい演目がたくさんあり、とても魅入ってしまいました。また、旅順の二百三高地では、中国の時社会で習ったことを自分の目で見ることができてとても感動しました。中国と日本の過去を肌で感じ、これからはもっと2国間の動きについてニュースなどで気にかけていこうと思いました。

この四泊五日で私は今までの人生で一番濃い時間を過ごすことができました。一年生は私一人で不安でしたが、先輩達がとても優しく接してくれて、嬉しかったです。また皆で集まろうという約束も出来るほど仲良くなることもできました。この四泊五日で学んだこと、感じたこと考えたことをこれからの人生に生かしていきたいです。

口ノ町　佳純　笠岡高等学校2年

私がSTUDENT EXCHANGE in 大連に応募したきっかけは友達の一言でした。去年言ったのだと教えてくれた友達の目はとてもキラキラしていて一瞬で行きたくなりました。私自身将来外国の人に対しての日本語教師になりたいと思っていて実際海外に出てその空気を感じることが出来るという本当に魅力的なものでした。英語があまり得意ではないので選考面接は不安で仕方がありませんでしたが心の底から行きたいと思っていたその気持ちが伝わったのか、選考された時はとても嬉しかったのを覚えています。

実際に中国を訪れて目で見て耳で聞き肌で感じた五日間でやはり一番の思い出はホームステイの三日間でした。日本人一人に対して一家族ということで少し不安もありましたが本当に楽しかったです。パートナーの煜琳、そしてお父さんとお母さん。みんな優しくて一緒にギョーザを作ったことも日本の映画を中国語の字幕で観たことも港町へ出かけたことも、普段話している言葉も生活様式も食べるものも違うのに一緒に笑い合えたことが何より嬉しかったです。もちろんもっと英語が上手に話せて、中国語がもっと話せていたらもっとたくさん話が出来たのだと思います。でも単に言葉の壁で隔てることができないものもあるのだと思いました。美味しいと笑い合う瞬間、お別れの時にありがとうと見つめあった瞬間、私は改めてそれを実感しました。

本当に今回の中国の留学はたくさんの人とつながることができたかけがえのない大切な思い出となりました。現地で出会った人も一緒に打ち合わせから頑張った友達も案内してくださった先生方もどの人にも感謝の想いが尽きません。楽しくて幸せで貴重な時間をありがとうございました。またいつか会えたらいいなって思っています！

金光莉奈　倉敷天城高等学校2年

私にとって今回がはじめての海外研修でした。行く前は自分で申し込んだにもかかわらず、メディアによる中国の負のイメージで行くのが不安になった時があった。しかし、実際に足を運んでみると私が思っていたのとは全く違う景色が広がっていました。高いビルが立ち並んで日本の首都より都会でした。

初日はホームステイ先の家族との面会があった。会う前の緊張感と会ってからの感動は忘れることができません。ホームステイ先で心に残っていることは、お茶を通してお互いの文化を教え合った

り、最終日の夕食です。

私は茶道部に所属している。そのため、何か日本の文化を伝えるということができないか考えた結果、普段やっている茶道にすることにした。英語でお手前や抹茶について説明し、その後実際にお茶を点てて出しました。和菓子を出すとおいしそうに食べてくれたのでうれしかったです。お茶の点て方ばかり教えるだけでなく、お茶の飲み方も教え、実際にお茶を点ててもらい、日本の文化にふれるということをしてもらった。紹介しておわってくつろいでいると、ホストファザーが中国のお茶を飲ませてくれて、いろんな話を聞くことができた。日本の文化と中国の文化がお茶を通して交換することができたと感じた瞬間でした。本当にうれしかったです。

またホームステイ最後の夜の夕食は外食だった。ホストファミリーとその友達の家族と行き、大量のごちそうを食べた。これがみんなで囲んで食べる最後の食事だと思うと、とてもさみしかった。ホストファミリーには本当に親切にしてもらい、感謝している。

観光では、雑技団がとてもおもしろかった。日本のサーカスのクオリティーが低く感じられるほどすごかった。ぜひまた見てみたいと思う。

この体験を通して、自分で人間関係をつくりあげることの大切さ、異文化を受け止めることの大切さや難しさ、仲間と協力し合い助け合うことの大切さ、伝え合うことの大きな力を学び、そして感じることができました。これをもとにさらに世界の国々への興味を深め、国際的なことに視野を広げて生きたいと思う。

西崎　結以花
西大寺高等学校2年

中国という国を自分の目で見てみたい！と思いこのプログラムに応募して、中国研修から帰って来た今、あの頃とは全く違う自分がいます。中国という世界でもトップクラスの国に行ったことで視野が広がり、自分の可能性をとても広げてくれたのです。

まずはじめに、中国に行ってとても強く思ったことがあります。それは、自分の目で見て実感することはとても大切だということです。こう思う理由は、日本でテレビや新聞などで中国についての良くないニュースを耳にしたりしましたが、実際に行ってみると中国の方は親切に接してくださったからです。今までの私は、正直中国について良い印象はあまりありませんでした。テレビで見る中国についての悪いニュースを実際に行ったことがある訳でもないのに信じていて変な先入観があったからです。ですが、実施に中国に行き、人とふれあったことで、今までの自分は間違っていたことに気づきました。ホームステイ先の方は、お腹は空いてないか、暑くないか、体調は大丈夫か、といつも気を遣って下さいました。日本にいる私の家族にお土産を持たせてくれたりしました。私はとても嬉しく、感謝の気持ちでいっぱいになりました。そんなホストファミリー、そして中国が大好きになりました。

この五日間は私にとってとても貴重なものとなりました。世界にはこんなにたくさんの人がいるんだ、こんなにたくさんの建物があるんだと驚きと発見のくり返しでした。そうしていく中で将来は国際的に活躍できるような人になりたい！と思う気持ちが芽生えてきました。この中国研修に参加して本当に良かったと心から思います。私はこの研修を通して更に成長することができました。これからもっと英語力を高め、自分の夢に向かって頑張り続けたいと思います。

坂口　芽生
清心女子高等学校2年

今回の大連研修では多くのことを体験し、学びました。特に印象に残っているのはパートナーと過ごした時間でした。大連研修の資料を請求して送られてきたものを見たとき、ホームステイは一日とありました。私は「あ、ホームステイは一日だけなのだ」と思い、少し安心した気持で応募しました。大連研修に行くにあたって最も不安だったのはホームステイだったのです。そして7月4日の第一回研修会で、ホームステイは三日に延ばされたと聞かされ、少し動揺しました。けれども、中国の家庭にホームステイするなんて今後なかなかできる経験ではないですし、日数が多くなったほうが学べることも多いだろうと、ポジティブに考えることにしました。結果、三日間のホームステイは私に多くのことを教えてくれるものとなりました。

初め私は、三日間も一緒に行動していると話題がなくなって会話が途切れてしまうのではないかと心配していました。そして、気まずくならないように頑張らなければと考えていました。しかし、そんなものは杞憂でした。私のパートナーは三日間とても熱心に私に話しかけてくれたのです。私のパートナーの英語力は私より若干劣り、私のほうが文法、語彙力は上でしたが、むしろ私のほうが聞き手に回ることのほうが多かったぐらいでした。私は目からウロコが落ちるような気がしました。私はアメリカで四年間過ごした経験があるので、英語でコミュニケーションをとることには不安があまりありません。しかし、三年前に帰国して以来、自分が文法を時々間違え、スピーキングレベルも落としてしまったと自覚していることもあって、自分の英語力に自信が持てないでいました。そして、間違うことを恐れるあまり、積極的に英語を使うことができないでいました。ところが、私のパートナーは間違えることを全く恐れず、どんどん私に話しかけ、英語を使うことに燃えていました。自分の英語力を更に上のレベルに向上させるためには英語を積極的に使わなければいけません。間違いを恐れ使うことをためらっていれば、いつまでたっても上達しないのだということを、彼女を通じて、私は改めて痛感しました。

さらに、私が彼女との交流で得たことは、英語が母国語でない者同士でコミュニケーションを図る経験でした。今まで

私が英語でコミュニケーションをとったことがあるのは、四年間住んでいたアメリカと、中学の研修旅行で二週間滞在したオーストラリアでした。どちらも母国語が英語の人々です。今回の中国・大連では、お互い英語が母国語ではなく、流暢とはいえない者同士で、コミュニケーションをとるのは今回が初めてだったのです。会話をしていると、相手が伝えたいことを完全に理解できないことも多々ありました。しかし、分からなかったところは聞きなおし、時には想像力も働かせることで、私たちは他愛もないおしゃべりからちょっとした意見の交換まで、様々な会話をすることができたのです。コミュニケーションで大切なのは言語能力よりも、相手とコミュニケーションを積極的に取ろうとする意欲と、歩み寄る姿勢だと学びました。

私は、この研修で学んだことを心にとめてこれからの英語学習、異文化理解に役立てていきたいと思います。

山本　茉以
岡山大安寺高等学校2年

今回の研修で私は多くのことを学ぶことができました。インターネットで調べる情報だけでは知ることのできないようなことを自分の目で見て、そして肌で感じることができたからです。

実際に中国に行く前、私はニュースなどで言われている日中関係の悪さからあまり歓迎してもらえないのだろうなと想像していました。しかし、その考えが百八十度ひっくり返るほど中国の人々はとても親切でした。

この研修の中で私が一番有意義な時間が持てたと感じたのはホームステイをしてパートナーとともにたくさんの話をしたことです。研修に行く前、ホームステイが一日から三日になったと聞いてとても心配していました。どうせならホテルがよかったとさえ思っていました。しかし、実際にホームステイをするとパートナーの子を含め、ホストファミリー全員がとても温かく接してくれました。いっしょにショッピングをして、一緒にご飯を食べて、映画を見て。いろいろなところへ連れて行ってくれました。そして、一緒に日本と中国の教育の違いや自分たちの家族のことについてなどたくさんの話をしました。まだまだ三日などでは到底足りないくらい話したいことやしたいことがたくさんありました。私たちの間では言葉の壁など大した問題ではない、そう思えるほど仲良くなることができました。

言葉の壁が問題ではないと言いつつも、パートナーの英語力にはとても助けられました。私が理解することができなかったら言い換えてくれたり、紙に書いたりしてくれて、博物館では中国語のわからない私に英語で説明をしてくれて。人とコミュニケーションをとろうという積極的な姿勢、そして英語力。その二つが国際社会に適応するのに必要な能力なのだと気づかされました。

今回の研修会での経験はどんな些細なことでもすべて私たちの将来につながる貴重な体験です。そしてこの交流会で出会えた人々全員がわたしにとってかけがえのないものです。このような貴重な体験をさせていただいたことに感謝して、これからの生活をさらに充実したものにしていきたいです。

奥原　唯
倉敷天城高等学校2年

今回の五日間の短期留学は自分の人生において、若いうちにこのような経験ができたことは本当に、本当に幸せなことだったと今とても実感しています。

わたしがこのプログラムに参加した理由は、友達に誘われたことがきっかけでした。そんな些細なことが行くきっかけでしたが、初めての海外だったので始めは不安の方がだいぶ勝っていました。それでも初日、飛行機に乗り、着いた先でホストファミリーが温かく迎えてくれたことで少し気が楽になりました。それは、中国人は昔から歴史問題や領土問題で日本人に対する批判が強いのだというイメージがすごくあったからです。だから、日本人を嫌ってない人が少なくとも中国にはいるのだということを知ることができました。

二日目は模擬授業と日中の学生達で交流会をしました。模擬授業では英語と書道の授業を受けさせてもらいましたが、やはり中国語と英語の語順が似ていたり、発音がしやすいようで、語学の差を肌で感じました。

三日目は大連外国語大学の見学で旅順まで行きました。二百三高地に行きましたが、大砲や実際の戦場だったところを見ると、あまり関係のなかった中国を戦場にしてしまったことに胸にすごく心が痛みました。やはり、自分達には関係のないこととして置いておくのではなく、過去の歴史に触れながら責任というものを私達若い世代が心に刻み、過ちが繰り返さないようにすることもとても重要であると再び強く感じました。

四日目は、三日間のホームステイ先をたち、上海へ向かいました。雑技団を夜に観たのですが、まさに圧感でした。長い鍛錬を重ねてきた、毎日の努力の賜物でした。これほどまでの演技は素晴らしいとしか言いようがありませんでした。

五日目は、豫園や博物館に行きましたが、どれも大きくて、広く、日本にはないものでした。

これほどまでに、普通ではできないような事をさせてもらえたということは、私のこれからにとって何とも変えがたい素晴らしい体験でした。本当に重ね重ね感謝の気持ちでいっぱいです。また、他校の知らない友人とも巡り会うことができたことは大変貴重なことでした。肌で感じ、実際の目でみて、体験することは、とても勇気がいることですが、そこには自分が成長できる経験がたくさん詰まっていることを知ることができました。この機会を与えて下さった方々、団体の方々、そしてホストファミリーにとても感謝しています。本当にありがとうございました。

岩崎 愛由
岡山大安寺高等学校2年

この五日間は、私にとってすごく刺激的でした。

今回のプログラムの中で最も印象に残っているのは、ホームステイです。私のペアの子は、メアリーという同い年の女の子でした。会ってすぐはお互い少し緊張していましたが、お家に行き、一緒に果物を食べながら話をしているうちにすっかり仲良くなりました。

ある日の朝は、ご飯を食べにマックへ。メニューが日本とは全然違い、なかでも、ドリンクに豆乳があったのが驚きでした。しかも真夏にも関わらずホット。私もチャレンジしました。これまで温かい豆乳を飲んだことはなかったのですが、これがとっても美味しい。冬にやれば、日本でも絶対流行るはずです。

私達は毎晩、どちらかの部屋に行ってはおしゃべりをしていました。日本のこと、中国のこと、お互いの学校生活について…話題はつきません。中国語と日本語をお互いに教え合ったりもしました。ここでメアリーが私に、「〝いただきます〟ってどういう意味？」と尋ねてきました。何となくは分かるけれど、言葉で説明するのは難しく、歯がゆい思いをしました。そして、英語をもっと勉強したいという思いが湧きました。

こんなうまく伝えられないもどかしさも含めて、お互いに母国語でない英語で会話をするのは、新鮮でとても楽しかったです。

今回は今までよりも多く、四泊中三泊ホームステイでしたが、それでも全然時間が足りず、もっと話をしたい、この国について知りたいという気持ちでいっぱいになりました。でも大丈夫。メアリーとは連絡先を交換し、帰国後もメッセージのやり取りをしています。これからも交流を続けていきたいです。

また、今回中国で過ごして、様々な文化の違いを発見しました。例えば、食事のマナー。中国は、日本と逆で、出された食事は残す方が良いそう。どのレストランに行っても大量に出てきたあの料理達は、そういうことだったのかと納得しました。あんなに残した料理を捨ててしまうのはもったいない気もしますが…。

日本にいると、中国の反日デモや大気汚染、食品問題などばかりが報道され、正直中国に対して良いイメージは持ち辛いです。私も今回中国を訪れるまでは、反日の人が多いのかな？と少し不安に思っていましたが、そんなものは単なる偏見でした。皆フレンドリーで、とても親切にしてくれる、温かい人達ばかりだったと思います。やはりイメージなんかじゃなく、実際に自分で行って、見て、肌で感じることが大切なのだと学びました。

たった五日間でしたが、その中で多くの文化に触れ、本当にたくさんの発見をしました。その一つ一つが私を成長させてくれたように思います。今回このプログラムに参加させて頂き、単に旅行に来ただけでは分からない、本当の中国の魅力を知れた気がします。また、一緒に旅した素敵なメンバーとの出会いも、私にとって宝物です。これからも、広い視野を持ち、自分の肌で感じて、成長していきたいです。かけがえのない貴重な経験を、ありがとうございました！

野田 采加
岡山城東高等学校3年

私は、以前から東アジアの国々に興味があり、将来は国際関係の仕事に就きたいと思っている。STUDENT EXCHANGE in 大連に参加することは将来のためになると考え、応募をした。

中国での五日間はあっという間に過ぎた。その間に、研修だからこそ経験できたことがあり、様々なことを学ぶことができた。

研修の中で一番楽しみにしていたことは、大連でのホームステイだ。不安よりも期待のほうが大きく、ホストファミリーと対面するのが楽しみだった。私のホストシスターは母国語のように流暢に英語を話していた。私が聞き取れないときには、ゆっくりと何度も伝えようとしてくれた。そんな姿を見ていて、とても嬉しくなった。そして、私も英語でもっと話したい、日本のことを英語で伝えたいと思った。

三日目の夜に中国のコメディ番組をホストシスターと一緒に観た。当たり前だが、テレビの中は中国語で会話をしている。私はホストシスターに英語に訳してもらいながら、番組を楽しんだ。番組の途中からは訳してもらわなくても、内容が分かるようになり、私たちは同じところで笑っていた。その時に気付いたことは、日本人も中国人も感じ方は同様である、ということだ。同じところで笑い、同じようなリアクションをする。国、言葉が違っても、表情ひとつで通じ合えることが分かった。ホストシスターとはこれからも連絡を取り続けていきたいと思う。

大連の後に訪れた上海では、多くの高層ビルが立ち並び、中国の急速な経済発展を自分の目で見ることができた。また、大連と違い、上海には多くの外国の方が観光に来ていた。中国の会社だけでなく、世界中の様々な国の会社があり、中国が世界の中でも注目を集め、大きな影響力をもっていることが分かった。

私が見たのは大きな中国のほんの一部でしかない。すべてを知ることは不可能だったが、自分が体験したことを多くの人に伝えていきたいと思う。これから国際関係の仕事をしていくためには、ただ単に言語を勉強するだけではなく、その国の文化、生活など、もっと深く理解していかなければならない。また、他国を深く理解するには、先入観を捨てることが必要ではないだろうかと思った。

これから、国際人として生きていくために必要なスキルは、まだまだあるのだと気づくことができた。とても有意義な5日間となった。私は中国がもっと魅力的に見え、もっと知りたくなり、そしてもっと好きになった。

学校法人　加計学園

岡山理科大学附属中学校（中高一貫コース）

ひとりひとりの能力を最大限に引き出し、伸ばすとともに、自ら学び自ら考える人間を育てる。

○ スーパー選抜クラス：難関国公立大学への進学をめざします。
○ 選　　抜クラス：国立大学・私立大学への進学を目指します。

〒700-0005　岡山市北区理大町１－１
岡山理科大学附属中学・高等学校　中高入試広報課
TEL (086)256-8527　FAX (086)256-8526

岡山商科大学孔子学院

中国語講座
2016年度前期　8レベル展開　計18回
（2016年4月6日～8月29日）
※途中からの受講可能

特訓コース
新HSK試験５級をめざす
月・水・金曜日　計90回

子供向けコース
毎週土曜日(11：00～12：00)
全15回

出張中国語講座
簡単な日常会話から本格ビジネス中国語まで
対応します。内容は相談に応じて調整いたします。

出張中国文化講座（開講料無料）
岡山県内の小学校、中学校、高校及び公民館を
対象とした出前中国文化講座を開講いたします。

お問い合わせ／お申し込み　岡山商科大学孔子学院　〒700-8601　岡山市北区津島京町２丁目１０－１
TEL 086-252-0642（内線521）　FAX 086-255-6947　http://www.osu.ac.jp/koushi/

学校法人　中国学園

中国学園大学

●現代生活学部人間栄養学科　●子ども学部子ども学科　●国際教養学部国際教養学科
●大学院（現代生活学研究科　子ども学研究科）

中国短期大学

●総合生活学科　●保育学科　●英語コミュニケーション学科
●情報ビジネス学科　●専攻科（介護福祉専攻）

〒701-0197　岡山市北区庭瀬83番地　TEL086-293-1100　FAX086-293-3993
http://www.cjc.ac.jp/　E-mail t-bosyu@cjc.ac.jp

Benesse®

「よく生きる」
を考える。

Yayoi Kusama "Pumpkin" Photo:Shigeo Anzai

株式会社ベネッセホールディングス　http://www.benesse-hd.co.jp/
岡山本社 〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-7-17　東京本部 〒163-0416　新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング16F

眼鏡医療技術専門学校 **ワールドオプティカルカレッジ**

今年も全員就職が内定しました！

メガネのスペシャリストを育成する専門学校です

天職が見つかる「学校説明会」

3月26日(土)
4月30日(土)
13：30〜16：30

ご予約は 0120(88)8233へ

高校生も社会人の方も、是非私たちの学校を見に来て下さい

資料は無料配布　随時見学できます ◀ 本校独自の特待生制度　奨学金制度があります ▶ 高校卒業生コース（3年制）　拓大大卒コース（2年制）

〒703-8282岡山市中区平井6-6-11　http://www.woc.ac.jp　E-mail woc@woc.ac.jp

中国語を話そう！

入門、初級、中級、上級、レベルに合わせて学びます。
見学歓迎！ご一報ください。

グループレッスン、個人レッスンのご相談にも応じます。どうぞお気軽にお問い合わせください。

＜費　　用＞ 入学金…3,150円（消費税込）
☆継続者は免除☆
受講料…31,500円（消費税込）／全24回
教材費…実費（2,000円〜3,000円程度）

＜申込方法＞ 申込書と、受講費用を事務局へご持参またはご送付下さい。
費用は前納にて一括納入を原則とします。

《問合せ先》
岡山中国語センター（岡山市日中友好協会内）
〒700-0902　岡山市北区錦町5-15　南田辺ビル2階　TEL（086)225-5068
E-mail oknittyu@yahoo.co.jp　http://www.oka-rizhongyouxie.jp/

おかげさまで27周年！

アジア・コミュニケーションズはあなたのツアーデスク！

○中国東方航空で上海へ！上海経由で中国・世界各地へ！
○大韓航空で韓国ソウルへ！　仁川空港経由で中国各地へ！
○お得なパッケージツアー（上海・台北・大連・青島など）
○特徴あるこだわりのツアー
　中国、ミャンマー、ラオス、ベトナムなど
　皆様のご要望に沿った旅行企画をいたします。
　安心の添乗員同行ツアーです
○日中教育交流のサポート
　企画から旅行実施、添乗までサポートします。

○お気軽にお問合せ下さい

アジコム→ツアー

ASIA COM **株式会社アジア・コミュニケーションズ**
観光庁長官登録旅行業第1816号　JATA正会員　IATA公認
岡山市北区錦町5-15　南田辺ビル4F（〒700-0902）
TEL（086）231-0334　FAX（086）222-7732
http://www.asicom.co.jp　Eメール info@asicom.co.jp

平成27年度岡山県日中教育交流協議会役員

役職	氏名	所属
参与	中島　博	岡山県経済団体連絡協議会 座長
	岡崎　彬	岡山県商工会議所連合会 会長
	加計　孝太郎	学校法人加計学園 理事長
	片山　浩子	NPO法人岡山市日中友好協会 会長
	末光　茂	社会福祉法人旭川荘 理事長
顧問	竹井　千庫	岡山県教育委員会 教育長
	福武　純子	公益財団法人福武教育文化振興財団 理事長
特別顧問	森崎　岩之助	元岡山県日中教育交流協議会 会長
	黒瀬　定生	岡山県日中懇話会 会長
	岡田　浩明	岡山理容美容学園 理事長
	門野　八洲雄	公益財団法人日本教育公務員 弘済会岡山支部　支部長
会長	岡本　啓	岡山県生涯学習センター 所長
副会長	井上　正義	岡山県都市教育長協議会 会長
	森　靖喜	岡山県私学協会 会長
	曽田　佳代子	岡山大学教師教育開発センター 特任教授

役職	氏名	所属
理事	中村　明雄	岡山県教育庁義務教育課 課長
	竹田　義宣	岡山県教育庁高校教育課 課長
	徳山　順子	岡山県町村教育長会 代表
	土屋　隆士	岡山県PTA連合会 会長
	川上　俊久	岡山県高等学校PTA連合会 会長
	松沢　克彦	岡山県高等学校長協会 会長
	小田　幸伸	岡山県特別支援学校長会 会長
	片山　安基夫	岡山県中学校長会 会長
	坂根　清貴	岡山県小学校長会 会長
	藤澤　薫	岡山県高等学校文化連盟 会長
	薄　茂樹	岡山県国際理解教育研究会 会長
	大川　泰栄	美作市教育委員会 教育長
（事務局長）	松井　三平	NPO法人岡山市日中友好協会 専務理事
監事	大橋　典晶	中国学園大学国際教養学部 教授
	赤松　康弘	公益財団法人日本教育公務員 弘済会岡山支部　参事

日中
交流

岡山県日中教育交流協議会

岡山県日中教育交流協議会　会報　『悠久』第48号

発　行：平成28年３月
発行者：岡山県日中教育交流協議会　編集委員会
〒700－0902　岡山市北区錦町５－15　南田辺ビル２階
TEL（086）225－5083　FAX（086）225－5041
印刷所：旭総合印刷株式会社